

# 日本地衣学会

# No.148

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 会務報告 .....	553
第41回青空地衣教室（高知県工石山，2017年7月17日）報告／松井 透 .....	553
第41回青空地衣教室（高知）に参加して／吉野 花奈美 .....	555

## 会務報告 *Reports of the JSL Activities*

### 第41回青空地衣教室（高知県工石山，2017年7月17日）報告

*Report of the 41st Outdoor School on Lichens by JSL at Mt. Kuishi, Kochi Prefecture, 17 July, 2017 / by MATSUI Tohru*

日本地衣学会第16回大会（高知）の関連イベントとして、以下のとおり「青空地衣教室」を開催しましたので報告します。

\* \* \*

日時：2017年7月17日（月，祝）

場所：工石山（高知県高知市土佐山）

共催：土佐生物学会

参加者：学会員13名，土佐生物学会会員6名，他2名

\* \* \*

「第41回青空地衣教室」は、明治から続く歴史と伝統ある地方学会の1つで、今年110回大会を控えた土佐生物学会と共催いたしました。

7月16日（日）の日本地衣学会第16回大会終了後、今回の講師をお願いしている千葉県立中央博物館の原田浩先生とともに、「工石山の地衣類」と題した概要説明を行いました。工石山は貴重な原生林が残る

>>>>>> 松井 透：第16回大会実行委員長，高知大学

自然豊かな山で、高知市からのアクセスが容易なこともあり、県民の森・市民の森にも指定されています。

7月17日（月・祝）は、雲が多かったものの梅雨明けした高知らしい好天に恵まれました。午前9時にJR高知駅前に集合し、貸し切りバスにて工石山へ向かいました。JR高知駅から工石山へは、乗用車を利用すると約30分で到着します。しかしながら今回は、大回りにはなりますが高知自動車道を経由する、大型バスが通行可能なカーブの少ないルートを約1時間かけて移動しました。

午前10時過ぎに「高知市工石山青少年の家」に到着し、土佐生物学会のメンバーとも合流。いよいよ青空地衣教室のはじまりです。工石山登山口から本格的登山ルートの起点となる「杖塚」までは暗い植林地帯が続きます。このため、ウメノキゴケ科のような目立つ地衣類は少なく、ラン藻地衣など、あまり初心者向きとは言えない種類のみでしたが、解説が始まりまし



図1. 青空地衣教室の1コマ。中央が講師の原田浩先生

た。土佐生物学会会員との質疑応答も続きましたが、この先にあるはずの地衣類が豊富な場所で観察する時間がなくなるため、まずは「杖塚」へ急ぎ移動しました。「杖塚」では小休止がてら、日当たりのよい小さな露岩を観察しました。キゴケ属、ハナゴケ属などを見ることができました。続いて「杖塚」から「ヒノキびょうぶ岩」へ向かう、通称「南回りルート」へ。照葉樹林に覆われた急斜面を横断するこのルートでは、

数少ないながらも日当たりの良い露頭が現れます。そこは、様々なウメノキゴケ科で覆われ、多くの地衣類を観察できました。また、トゲシバリの大群落も観察でき、参加者は大興奮でした。ただ、原田先生のお話では、以前に比べて地衣類の量や種数は減少しているとのことでした。

午後1時前に「ヒノキびょうぶ岩」に到着。ここは高知市を一望できる開けた場所で、イワタケをはじめ、様々な葉状、痾状地衣類を観察できました。特に、国内ではとても希少なツノマタゴケモドキ（原田先生は以前、この山で採集されたそうです）と、西日本の山地の岩上に多いヤステゴケモドキは、原田先生がどうしても参加者に見てもらいたかったそうで、2種とも出会えて満足されていました。昼食をはさみ下山を開始、時間に余裕がなかったため、最後はトレイルランニングのようになってしまいました。午後3時にJR高知駅前到着し、今回の青空地衣教室を終えました。



図2. 青空地衣教室参加者（撮影：原田浩先生）。

## 第41回青空地衣教室（高知）に参加して

*My Impression for the 41st Outdoor School on Lichens in Kochi / by YOSHINO Kanami*

>>>>>> 吉野 花奈美（千葉大学大学院園芸学研究所・博士後期課程2年）

日本地衣学会第16回大会最後のお楽しみである第41回青空地衣教室が、高知県の工石山にて開催されました。参加者は土佐生物学会会員を含む21名で、昨年の岐阜同様晴天に恵まれ、文字通り青空の下、にぎやかな観察会となりました。高知駅前から大型バスで1時間余り、酷道として知られる国道439号を通り、登山口に到着。まずは杖塚を目指して登り始めました。途中、チャート上のヘリトリゴケやチチレアオキノリ、エビラゴケ、フランネルゴケ（図1）などを観察しました。フランネルゴケは担子菌とシアノバクテリアの珍しい共生で、私は初めて見ることができたのでとても嬉しかったです。



図1. フランネルゴケ（撮影：坂井広人さん）。

土佐生物学会の方々も熱心に観察されていて、原田先生の解説により、普段は見過ごしてしまうような地衣類にもとても興味を持っていただけたようです。最近、私のまわりにも地衣類に興味はあるけど、最初の一步の踏み出し方が分からないといった人が多くいます。今回のような観察会はそういった方に野外で地衣類を楽しんでもらえる大変有意義な機会だと思いました。話は観察会に戻り、杖塚ではアカミゴケやコアカミゴケ、ヤマトキゴケ、イワニクイボゴケなどを観察しました。アカミゴケとコアカミゴケの違いは今まで大きさでなんとなくしか区別できていみせんでしたが、アカミゴケはジョウゴ状の子柄を作り黄色味を帯びるとのことです。今後は自信を持って区別できるような気がします。杖塚から今回の目的地であるヒノキびょうぶ岩までの道のりでは、トゲシバリやワリキウメノキゴケ、モミジツメゴケなどを観察しました。トゲ



図2. トゲシバリ（撮影：坂井広人さん）。

シバリ（図2）は土とチャート上それぞれに生育しており、特にチャート上では幅数メートルはあるような群生を成していて圧巻でした。ワリキウメノキゴケは陽光が差し込むチャートに大きな個体がいくつも生育していました。12時半ごろ、標高1020mほどのヒノキびょうぶ岩に到着。途中からかなりペースアップし



図3. ヤステゴケモドキ (撮影：坂井広人さん)。

て登りましたが、岩の上から高知の山々と高知市の街を一望することができ、疲れが吹き飛ばすようでした。ヒノキびょうぶ岩には、ここまでの道のりでは見られなかったツノマタゴケモドキとヤステゴケモドキ(図3)が生育しており、ともに稀な種ということで、お

屋ご飯をほお張りつつしっかり観察しました。工石山では地衣類の他にもミヤマクワガタや巨大で青色の鮮やかなシーボルトミミズも写真に収めることができました。お屋ご飯を食べ、初めて出会えた地衣類たちとの別れを名残惜しみつつ、工石山を後にしました。短い時間でしたが、たくさんの地衣類を観察でき、また土佐生物学会の方々とも交流を深めることができた、とても充実した観察会でした。最後になりましたが、青空地衣教室の企画や冊子作り、バスの手配などいろいろとお世

話して下さった高知大学の松井先生、地衣類の解説やバスの中で話し相手になって下さった原田先生、楽しい観察会をありがとうございました。工石山にも高知にも是非また来たいと思います。

### ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378 ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 148, pp. 553-556; eds. Nakashima H., Bando M., Kawakami H. & Harada H., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 26 Dec. 2017.

### 日本地衣学会ニュースレター 148号

発行日：2017年 12月 26日

編集：中嶋裕之・坂東誠・川上寛子・原田浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒658-8558神戸市東灘区本山北町4-19-1

神戸薬科大学 薬化学研究室

©2017日本地衣学会 (© 2017 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。